

鈴木 はい。えーと、では、早速始めたいと思いまーす。

野瀬 はい。

鈴木 えーと、前回ちょっとお伺いしなかったところからちょっとお伺いしたいんですけれども。

野瀬 はい。

鈴木 あの、病院内で、あの、服を着替えるときって、あの一、どの服にするのかって、基本的に自分で選ぶことはできましたか。

野瀬 それは(\*\*\*\*イラ@00:00:25)ないです。

鈴木 あ、じゃあ、なんか、他の患者さんたちも、まあ、基本的には毎日っていうか、お着替え。

野瀬 いや、お風呂の日だ、ぐらいですけど。

鈴木 お風呂の日ぐらいは、えっと、え、お風呂のき、げ、あ、あ、そうなんですか。えっと、着替えて毎日じゃないってことですか。

野瀬 ではないね。

鈴木 あ、そうなんですか。えっと、それは野瀬さんも含めてですか。

野瀬 そうですね。

鈴木 あ、そうなんですね。え、えっと、服っていうの、ごめんなさい。えっと、普段着っていうか。

野瀬 入院してるから、みんな。

鈴木 はい。

野瀬 パジャマの人も多いですけどね。

鈴木 あ、パジャマの人が多いんですか。えっと、つ、えっとー、野瀬さんはどうだったんですか。

野瀬 まあ、暑がりなんで。

鈴木 はい。

野瀬 パジャマというより、今みたいなタンクトップ。

鈴木 ああ、タンクトップ。

野瀬 短パンとかが多いですけど。

鈴木 ああ、そうですか。そのタンクトップと短パンのご格好というのは、その、えっと、毎回、毎日交換するってわけじゃなくて、な、え、なん、何日置きとかあるんですか。

野瀬 そこ、入浴のとき。

鈴木 あ、入浴のときだけ。

野瀬 もちろん汗かいたり。

鈴木 はい。

野瀬 汚れたりしたら替えてはくれはるけど。

鈴木 ああ、そうですか。それはどう思われたんですか。そ、それについては。

野瀬 うーん。いや、僕は特に。

鈴木 気にしない。

野瀬 気にはしてないですけど。

鈴木 今もそんな感じってことですか、じゃあ。

野瀬 今も僕はそうですね。

鈴木 交換しないということですね。

野瀬 なんか、服の制限は割と多かったですけど。

鈴木 服の制限。

野瀬 なんか僕、今タンクトップ着てるんですけど。

鈴木 はい。

野瀬 最後、退院する最後の1年ぐらいでルールが厳しくなったけど。

鈴木 ああ、そうですか。

野瀬 気管切開してる人は前開きの服以外は基本やめてくださいみたいな。

鈴木 なんの服ですか。

野瀬 前開き。

鈴木 前開き。服はやめてください。

野瀬 前開きの服以外はやめてください。

鈴木 あ、以外は。あ。え、それはどうしてそうなったんですか。

野瀬 頭から被るやつやと、呼吸器をいったん外さなあかんの。まあ、外すことにリスクがあるっていう反応と、そんな外すと喉元が緩くなるからやめてほしいというのが病院の見解でしたね。

鈴木 あ、そうですか。それについては野瀬さんどうお考えなんですか。

野瀬 僕は軽く抗議はしたんですけど。

鈴木 あ、そうですか。

野瀬 暑がりやから、そんな。

鈴木 うん。

野瀬 パジャマなんか着てられませんっつって。

鈴木 ああ。なるほどね。えっと、今タンクトップ着られてますけど、そのときって外すんですか、呼吸器って。

野瀬 一瞬。

鈴木 あ、一瞬外しますか。それがあるから、なんかあの、体に負担あるとかありますか。

野瀬 いや、僕は結構外してても息ができる人なんで。まあ、ただ息ができない人でも、別にそんな。30秒も40秒も外すわけじゃないから。

鈴木 あ、はい。

野瀬 危険ではないと思うんですけど。

鈴木 ふんふんふんふん。ということは、呼吸器つけてる方っていうのは、パジャマの方が多かった。

野瀬 そうなんです。

鈴木 ふーん。前開き以外の服。その前開きの服っていうのは、その、パジャマっていうことになってしまうことが多いってことですかね。

野瀬 まあ、パジャマとか、ちょっとおしゃれなシャツとかいうやつ。

鈴木 ああ、なるほど。さすがにでも、タンクトップ系で前を開くなんてないですもんね。

野瀬 そうですね。

鈴木 フフフ。うーん。じゃあ、暑い方って結構汗かいたりとかませんかね。

野瀬 恐らく。

鈴木 うーん。で、抗議されて、ということは、1年前っていうことは、もう JC(\*\*\*\*アール@00:05:29)の人たちが入ってる。

野瀬 そう。

鈴木 状況で。で、そのことをお伝えされたわけですよね。

野瀬 いや、JCには別に、まあ、僕自体はそんなに問題やとは思ってなかったから。

鈴木 ああ、ふんふんふん。

野瀬 も、もっとおっかい問題やったら JC(\*\*\*\*エル@00:05:45)にも相談はしたんですけど。まあ、言うたってもう、そんな(####@00:05:50)いいやと思って。

鈴木 うん。それで、じゃあ、野瀬さんは、えっと、どなたかにはそれは、病院関係者の人にお伝えされたんですか。

野瀬 あ、抗議。

鈴木 うん。

野瀬 普通。病棟の看護師とか副師長っていうのがね、人による。抗議をしてるときも。

鈴木 副師長。看護師長の次の。

野瀬 (####@00:06:15)。

鈴木 あ、そうですか。そのとき何というふうに、お、おっしゃってましたか。

野瀬 うーん。まあ、これはもうこっちで決めたことなんでみたいな感じで。

鈴木 それ、1年前ぐらいってのは、2018年ぐらいにそうだったってことですよ。

野瀬 そう、そうです。

鈴木 それは、えっと、それまではそうじゃなかった。

野瀬 そうそう。なんか(\*\*\*\*タケク@00:06:56)呼吸器が外れてしまう事故が増えてて。

鈴木 はい。

野瀬 まあ、主に僕が外れてはいたん(####@00:07:05)。

鈴木 あ、そうですか。

野瀬 ただ僕はそんな、外れても息ができるんで。

鈴木 はい。

野瀬 そんな問題視はしてなかったんですけど。

鈴木 あ、はい。

野瀬 やっぱ、病院なんで。

鈴木 はい。

野瀬 呼吸器が外れるっていうのは。

鈴木 ああ、そうですか。

野瀬 一大事っていうふうに。

鈴木 うん。

野瀬 捉えてはって。

鈴木 ああ、そうですか。あの、呼吸器が外れる事故というのは、えっと、なに、何かがきっかけで外れてしまうということなんですか。

野瀬 いや、付けが緩かったりした。

鈴木 あ、付けが緩かったり。でも、ごめんなさい。タンク、例えばタンクトップであるっていうことと、呼吸器が外れることってというのは関係してるんですか。

野瀬 まず上着、上着(\*\*\*\*キ@00:07:54)のときに。

鈴木 ああ、はい。

野瀬 外すから。

鈴木 うーん。

野瀬 そのときに緩んでしまうっていうのが多分向こうの見解。まあ、ただ、1日中外さへんわけでもないからとは思ったんですけど。

鈴木 ああ、そうなんすか。なるほど。うん。で、実際それが理由で外れてたっていうことなんですかね、向こうの見解としては。

野瀬 向こうの見解は。

鈴木 あ、そうですか。うーん、なるほど。この決定は看護師長レベルなんですか。

野瀬 だ、病棟内の話なので。

鈴木 はい。

野瀬 多分、病院全体ではないと思うんですけど。だから違う病棟にいたら、タンクトップとか着れた可能性もあるんですけど。

鈴木 あ、そうですか。ということは看護師長の決定。

野瀬 恐らく。

鈴木 ふんふん。

(無言)

鈴木 あと前、あの、おっしゃってたの。お風呂は週2回だったと思うんですけど。

野瀬 ええ。

鈴木 小学校のときみんなでこう入ってらっしゃったと思いますが。

野瀬 ええ。

鈴木 週2回で十分だったと思いますか。

野瀬 いや、結構夏場とかはきつかったです。頭はかゆくなったりする。

鈴木 そのときに入らせてほしいっていうことはできるんですか。

野瀬 いや、多分できない。

鈴木 あ、それはできない。

野瀬 誰も言ってはないから分からないですけど。だから言っても(#####@00:09:56)  
してはもらえない。

(無言)

鈴木 あとあの、病院で生活されてたときって、睡眠って十分取れてると思いますか。

野瀬 睡眠は、あと、結構取れてたんじゃないですか。朝はだいぶ早かったですけど。

鈴木 6時ですもんね。夜が早いからってことですか。

野瀬 夜は9時ぐらいにやっぱ電気消さなきゃいけない。



鈴木 うん。一応じゃあ、その時間帯静かで、眠ることができたってことですかね。

野瀬 そう。うーん、まあ、でも人によっては。

鈴木 はい。

野瀬 夜中見回りいんですけど、普通に部屋の電気つけたりしながら、そのうち起きたりはしますけど。

鈴木 見回りって何時に来るんですか。

野瀬 見回り、2時間置きに多分。9時に寝たとしたら次、11時に来て、1時に来て、3時に来て、5時に来るんですけど。恐らく。

鈴木 その見回りはなんのために見回りにく、来られるんですか。

野瀬 人によっていろいろですけど、体の向きを変えはったり、トイレも(#####@00:11:27)。

鈴木 野瀬さんもそういう、に、要望っていうかニーズがあったんですか。

野瀬 僕は体の向きを変えてくれたと思うんですけど。結構、体動く方がいても、(#####@00:11:45)。

鈴木 じゃあ、その見回りの頻度っていうか、それはご自身にとって適切だったかなと感じますか。

野瀬 まあ、そうですね。

鈴木 たら、明かりがつくってということっていうのは、それはふつ、ふつ、普通のことなんですか。

野瀬 うーん。あの暗めの電気とかだったらまだいいんですけど、普通に部屋の電気を多分つけたりする人もいるんで。それはやめてほしかったなと思いますけど。

鈴木 あの蛍光灯の明るい電気。

野瀬 そう。

鈴木 ていうことですか。じゃあ、それで起きてしまうことってのもあった。

野瀬 そうそう。

鈴木 あ、そうですか。そういうこともやめてほしいっていうことは、い、言われましたか。

野瀬 言ったりはしたんですけど、直りはしなかったですね。

鈴木 その特定の看護師さんのやり方。

野瀬 いや、何人かでやると思う。だからご年配だったりすると、暗かったら見えないときがあると思うんですけど。

(無言)

鈴木 うーん。

(無言)

鈴木 あと、前、あの、おっしゃってた、あの、褥そうで命の危険があったっていうふうにおっしゃったと思うんですけど、あのときって。

野瀬 ええ。

鈴木 いつ、いつでしたか。ご自身が。

野瀬 そのときは、19。

鈴木 19歳。

野瀬 19からちょうど20歳になったときですね。

鈴木 ということは。

野瀬 ちょうど誕生日の 1 週間前に高熱が出だして。その前から褥そうがあったのは分かっていたんですけど。

鈴木 2014 年とかそんなもんですかね、じゃあ。15 とか。卒業されたのは 2014 ですか、高卒。

野瀬 高卒は 2016 ですね。

鈴木 あ、ごめんなさい、2016。

野瀬 (#####@00:14:44)、2017(#####@00:14:46)。

鈴木 2017 年。

野瀬 11 月ですか。

鈴木 その頃って、その年にじゃあ、JC が訪問する、その年でしたか。確か 2017 年の。

野瀬 次の 12 月から多分。

鈴木 そうですよ。

野瀬 来てはったんで。

鈴木 じゃあ、その高熱が出て、その頃ですか。その頃と JC が訪問された日、結構近い。

野瀬 そうですね、多分。

(無言)

鈴木 もうその前あれですよ、2016 年に虐待事案で京都市から指導受けてますよね。

野瀬 そうですね。

鈴木 じゃあ、その1年後ぐらいに野瀬さんも、こういう。

野瀬 そうですね。

鈴木 つまり指導を受けて、まあ、いろいろこう、ちゃんとやるように多分京都市から言われてると思うんですけど。

野瀬 ええ。

鈴木 でも実際は改善されてなくて、まあ、野瀬さんがこういう。

野瀬 そう。

鈴木 ご病気になったっていうことなんですかね。なるほどね。

(無言)

鈴木 あとあの、病院の中でリハビリをされたときって。あのー。

野瀬 はい。

鈴木 ボイタ法とかドーマン法とか、そういう方法ってやられたことってありますか。ポバース法とか。

野瀬 いや、特に。

鈴木 それはない。基本的にじゃあ、体を動かすっていうこと。

野瀬 そうですね。

鈴木 じゃあ、身体的にそれほど大きな負担はない程度の動かし方っていうことですかね。

(無言)

鈴木 あとあの、前、あの、売店にこう、ものを買に行きってというお話されてたと思うんですけど。

野瀬 ええ。

鈴木 そのときって、ふ、いつでも行けます。今ちょっと買いに行きたいから行くみたいな。

野瀬 いや、それはできない。

鈴木 どういうふうなあれで行くんですか、行くときって。

野瀬 僕、高校のときは、そこ行くつつたら時間をなおして、放課後に、じゃあ、今から行こうかみたいな。

鈴木 あ、そうですか。

野瀬 向こうから言われて。

鈴木 あ、そうですか。

野瀬 一緒に行くみたいな感じですね。

鈴木 それは前もって伝えるということですか。

野瀬 そうですね。

鈴木 その日ですか、前の日ですか。

野瀬 前の日とかか。

鈴木 前の日。例えばその日になんか、何かちょっとおなかがすいておかしを買いに行くって言ったときに、保育士さんは対応してくれますか。

野瀬 うーん。なんかさ、時間外におやつを食べさしてくれないんで。

鈴木 あ、そうですね。

野瀬 だからこう、できないとね。

鈴木 じゃあ、例えば、シャン、シャンプーというか、その、文房具とかそういうものを買  
うってなったとき。

野瀬 あとは代わりに買いに行ってくれたり。

鈴木 ああ。じゃあ、その日にちょっと行きたいんだけどっていうのはちょっと難しいって  
ことですか。

野瀬 まあ、空いてはったらっていうか。

鈴木 あ、たまたま空いてたり。ちなみに保育士さんの時間っていうのは、だい、何時ごろ  
とか決まってるんですか、動ける時間って。

野瀬 勤務時間が8時半から5時15分までにやったと思うけど。病院全体が多分8時半か  
ら5時15分までで機能してるんで。

鈴木 じゃあ、その時間内であればっていうことですか。

野瀬 そうですね、多分。

鈴木 まあ、卒業された後は、まあ、お時間があると思うんですけど、それはじゃあ、午前  
中も可能だっていうことなんですかね。

野瀬 いや、卒業してからは多分、(###@00:19:25)じゃなくなったんで。

鈴木 ああ、はい。

野瀬 おやつ時間とかもなくなって。

鈴木 ああ、はい。

野瀬 本当にさしてもらうこともできなくなって。

鈴木 はい。

野瀬 でも食べる物も、他の手足が動かないんで。

鈴木 うん。

野瀬 親が来たとき買ったり。

鈴木 うん。食べることではなくて、例えば先ほど申し上げたように、その、文房具を買うとか。

野瀬 あの、まあ、それはもう、僕と一緒に行くんじゃなくて、保育士の人が、に、これ買ってきてくださいって言って、代わりに買える感じですね。

鈴木 ああ、そうですか。ふーん。それなかなか一緒に、い、あの、ごめんなさい。えっと、野瀬さんとしてはそれはどう思われますか、そういうことについても。

野瀬 やっぱ見て買ったほうが僕はうれしいですけど。ただまた学校の話とつなげるんですけど、まあ、病棟が移転した関係で学校に行けなくなったっていう話を。

鈴木 はい。

野瀬 前にしたと思うんですけど。

鈴木 はい。

野瀬 その関係で、この家族とかドクターとか看護師以外と、病棟から出れなくなってしまって。多分それもあって売店には一緒に行けないと思うんですけど。

鈴木 売店でどこにあるんですか。

野瀬 売店は、もうすぐそこやったんですけど。病棟の横らへんにあったんですけど。

鈴木 うん。でも、い、あの、一定にしての、その病棟の中には一応あるわけですよね。

野瀬 病棟というか、病院内にはあるけど。

鈴木 あ、ごめんなさい。病院内にはある。はい。

野瀬 病棟からは出れないっていう状態だったんで。

鈴木 距離的に離れたってことなんですか、その売店までの距離っていうか。

野瀬 いや、売店は逆に近くはなったんですけど。

鈴木 あ、はい。

野瀬 ただ病棟からは出れないみたいなふうに統一しはって、呼吸器の患者さんとかは。

鈴木 ああ。あれ、でもちょっとなんか分からないのが、え、その学校はまあ、距離が例えば5分とかある。

野瀬 ええ。

鈴木 まあ、それはまあ、時間が増えたんだなと思いますけど。売店は5分かかるわけじゃないですよ。

野瀬 1分ぐらいです。

鈴木 ですよ。えっと、え、それでもその病棟から出ることができなくなったのは。

野瀬 そう。

鈴木 統一させるためについていうことですか。

野瀬 まあ、あとは、みんなが出たいって言ったら、多分看護量が増えたりするんで。

鈴木 はい。

野瀬 それを抑制したかったんじゃないですか。

鈴木 ああ。えっと、すみません、売店に行くって言ったときに、ついてきてくれるのっていうのは保育士さんと。



野瀬 だから。

鈴木 か、看護師さんですか。

野瀬 看護師さんもほんまに空いてたら行ってくれはるんですけど。

鈴木 なるほど。で、移転後もそういう状況にあってるわけですね、一応。

野瀬 そう。

鈴木 えっと、でもその、出ると要するに看護師だけじゃなくて保育士のほうも、あの、手間掛かるというか。

野瀬 いや保育士は、あの、吸引とかができないんで。多分病棟からは出せない。あとは前  
のとき、前、病棟があったときは。

鈴木 はい。

野瀬 普通に売店まで行ってたのになんでやろと思ったんですけど。

鈴木 フフ、そうですね。

野瀬 逆に距離があんのに。普通に病棟、病院とかも。

鈴木 はい。

野瀬 散歩してたりしたけど、移転してから完全駄目になったり。

鈴木 そうですね。それはなんか、あまり理由がないですね。

野瀬 多分。

鈴木 つまり移転前、つまり 2011 年ぐらい前のときも、ときは、散歩をするとか売店する  
ときに、あ、売店に行くときに、保育士さん、吸引、介助できないけど。

野瀬 ええ。

鈴木 一緒についてきてくれて。

野瀬 そうですね。

鈴木 で、何にも問題はなかった。ちなみにそのときって何分ぐらい出掛けてらっしゃるんですか。

野瀬 散歩は多分1時間とかは行くと思うんですけど、まあ、売店でも10分は行くと思う。

鈴木 ふーん。で、えっと、移転して、そうするともう病棟から出ることができなくなる。

野瀬 そうですそうです。毎年お花見とかも保育士さんが聞いてくれてはったんですけど、移転した途端、呼吸器の人たちは出れなくなって。

鈴木 はい。毎年何を計画されて。

野瀬 花見。

鈴木 あ、花見ですか。

野瀬 裏の結構桜が。

鈴木 ああ。

野瀬 有名っていうかきれいなんで。

鈴木 はいはいはい。どちらに行くんですか、花見って。

野瀬 病棟にも桜の木が何本も植えてあって。病院に。

鈴木 病棟っていうのは、えっと。

野瀬 病院の敷地内に。

鈴木 敷地の中であって、で、お花見するっていうのはその敷地の中の。

野瀬 そうです。

鈴木 その桜見に行く。で、移転後はそれもできなくなった。

野瀬 そうそう。

鈴木 病棟の中の敷地の中にあるところでも行けなく、ですね。

野瀬 そうですね。ま、看護師が付き添ったりしたら行けるんですけど。

鈴木 あ、はい。あ、看護師が付き添ったら行ける。

野瀬 あとは看護師にそんな余裕がないから。

(無言)

鈴木 じゃあ、変な話、あの一、呼吸器の、えっと、つけてない方っていうのは移転後も自由に。

野瀬 まあ、そういう(#####@00:25:44)。

鈴木 で、外出してました。

野瀬 ええ。

鈴木 なるほど。

野瀬 ただまあ、これを言い出すとあれなんですけど。

鈴木 はい。

野瀬 まあ、学校行ってたときも校舎が体育館合わせて三つあるわけで。その校舎をまたぐとももちろん病棟帰るのも、いくら1年前やからつつても5分とかはかかるし。なんでそんな規格やったらね、あかんくなったんやろとは思ったんですけど。

鈴木 あ、距離的には変わってないってことですか。

野瀬 いや、そのまあ、授業によっては。

鈴木 あ。

野瀬 校舎をまたいだりするので。

鈴木 授業によってはすぐに戻れる場合もあるし。

野瀬 そう。

鈴木 授業によっては5分かかる場合もあるし。でも5分かかる場合でも大丈夫だったと。

野瀬 そうそう。

鈴木 でもそれなのに移転後はもう一律駄目になってしまう。うーん。

(無言)

鈴木 あと面会って基本的に何時でも来て構わないんですか、いつでも。

野瀬 面会は最近(\*\*\*\*ミズ@00:27:13)病棟に関しては、うーん、移転前までは無制限やったんですけど、(\*\*\*\*ザ@00:27:26)ルールがあったんかもしれないんですけど。

鈴木 はい。

野瀬 移転後はもう病棟の前のめん、面会時間見たいな看板が立てられるようになって。

鈴木 はい。

野瀬 あとはこの病院とかでも一応と思うんですけど。

鈴木 あ、はい。

野瀬 ああいう看板が。

鈴木 あ、そうですか。

野瀬 平日は午前中が駄目で、で昼からやと1時から19時って、1時から7時までとか。で、土日が10時から19時やったような気がするけど、誰も守ってる人いなかった。

鈴木 ハハ、そうですか。えっと、それは移転後も。

野瀬 そうですね。

鈴木 でも守ってなくても別に何も言われたい。

野瀬 そう。

鈴木 そうですか。じゃあ、何のためにそういう看板を設けてるんですかね。

野瀬 もしなんか、べ、外部とかなんか言われたときに、ちゃんとかういうの決めてますよって言いたかったんじゃないですか。

鈴木 ああ。でもどうして移転、移転した年って2011年ぐらいですよ、確か。

野瀬 そうですね。

鈴木 どうしてそ、そのときってそんなにいろんなことが変わったんですか。

野瀬 うーん。僕にはよく分かりませんが。

鈴木 うーん。

野瀬 取りあえず職員が仕事を減らしたかったんじゃないですか。

鈴木 あとあの、病院でその、お食事されるときって、あのー、おかわりってできましたか。

野瀬 いや、おかわりは特に。

鈴木 できない。

野瀬 あ、前もってご飯を多くしてといてほしいとか、先生に言えば増やしてもらえたりはしたと思うんですけど。

鈴木 それはどう思います。そういうふうに。

野瀬 うーん。もちろん日によって食べれるときもあれば食べれへんときもあるから、(###@00:29:53)にずらしてほしかったと思ったんですけど。

鈴木 前もってっていうのはどのぐらい前もってなんですか。

野瀬 時間によるんですけど、当日でも大丈夫っちゃ大丈夫。2、3時間前には言っとかなあかんっていう。だからそんなしょっちゅう、ころころは変えてもらえへんから。

鈴木 うん。

野瀬 もう1回この料理つつたらしばらくその料理。だからやっぱ(####@00:30:28)、普通に戻してくれるとは思うんですけど。

鈴木 うーん。

野瀬 そのまんま1回、器はこれみたいな。明日はこれではやってくれないと、また。

鈴木 ふーん。例えばあの、多くして、残したりとかしたらなんか言われますか。

野瀬 うーん。まあ、看護師とかから増やしたのに食べへんのやったらもう減らしてもらったらみたいなことは言われますけど。

鈴木 うーん。

(無言)

鈴木 あとはもう、以前、病棟って二つだったってお話されてましたよね。(\*\*\*\*キンジツ@00:31:24)病棟って。

野瀬 ええ。

鈴木 二つっていうのは、1階と2階に分かれてた。

野瀬 いや、同じ。

鈴木 同じ病棟。あ、病棟っていうか、フロア。

野瀬 同じフロアで。

鈴木 1階で。えっと、距離的に離れるんですか。

野瀬 いや、もう引っ付いてる。引っ付いてるっていうか。

鈴木 あ、引っ付いてる。

野瀬 まあ、あっちの廊下からは。

鈴木 うん。

野瀬 こっちの病棟みたいな感じで。

鈴木 ああ。で、あの、一つにその後なるわけですよね。

野瀬 そうそう。

鈴木 一つになったときと二つのときって、何かこう、何ていうんですかね、距離的に離れるとか近くなるとか、そういうことはない。

野瀬 は、特に。

鈴木 ということは前おっしゃってた、その、二つのときに比較的看護師がなんかいたって話がありますよね。で、一つになったとき、ちょっと数が減るって。じゃあ、それは病棟が一つになったことと、あんまり基本的には関係ないんじゃないかっていう。

野瀬 まあ、一つにして職員の量を減らして、したかったみたい。

鈴木 ああ。一つにすることで二つのときよりもなんか変わるんですか。見やすくなるとか。

野瀬 うー。まあ、ぱっと見、一つでも二つでも変わらないんですけど。

鈴木 うーん。

野瀬 まあ、師長が1人になったくらいで。

鈴木 あ、そうですね。

野瀬 2人いた師長が。また患者さんを多分、前が何しよっか忘れたんですけど。

鈴木 うん。

野瀬 減らさはって。

鈴木 はい。

野瀬 それで職員も減らさはったと思うんですけど。

鈴木 患者さん最初60でしたよね。

野瀬 いや、多分、一番初めはどれぐらいいた。

鈴木 野瀬さん入られたとき60でしたっけ。

野瀬 僕入ったときは、子どもやったんであんま、人数は気にしてないんですけど。

鈴木 ああ。

野瀬 多分80ぐらいいたかもしれないですけどね。

鈴木 そうですか。じゃあ、病床数が昔よりは減ったんですね。

野瀬 恐らく。



鈴木 今なんかホームページ見たら、60 でしたっけ、なんかそんなふう書いてあった。

野瀬 そうそう。

鈴木 ですよ。

野瀬 また一般の患者さんも受け入れたりしてはったんで。

鈴木 あ、はい。

野瀬 キンジツ病棟やけど。

鈴木 あ、そうですか。あ、そうなんですか。ふーん。じゃあ、キンジツというか、その、神経難病の方っていうのは、実際もうちょっと数は少なかったっていうことですか。

野瀬 そうですね。

鈴木 ふーん。じゃあ、大体その二つの病棟が一つになったぐらいに患者数も看護師も減ったってことなんですか。

野瀬 多分そうやと思う。

鈴木 ああ。

(無言)

鈴木 でもそれにしても、何ていうんですかね、その、夜間にその患者さんに関わる比率っていうのはちょっとやっぱり、昔よりも悪くなったっていう印象はあるんですよ。

野瀬 そうですね。

鈴木 ふーん。

野瀬 あとはまあ、患者さんも多分昔は若かったけど、ご年配の方がだいぶ増えてきて。みんなやっぱ年を取るにつれて、病状が進む人が多いので。その分介助が増えたりして、仕事

が回らなくなってっていう、あると思うんですけど。

鈴木 なるほど。

野瀬 ここ入院してる人は、多分 10 年 20 年メンバーは変わってないと思うから。

鈴木 あ、そうですか。結構じゃあ、高齢の方が。その 65 歳以上の方が増えてるなっていう。

野瀬 うーん、65 歳が、以上の人もいるとは思うんですけど。

鈴木 はい。

野瀬 キンジツの方とかだと、まあ、18 で卒業したとして(#####@00:36:15)、呼吸器系が弱ってきたなっていう。筋肉が衰えて、やっぱ手足が動かなくなって。まあ、最初は歩けてたりしてても、歩けなくなったりする人もいると思うんで。やっぱ腕の筋肉が落ちてると、パソコン操作とかね、支障をきたしてしまうんで、その微調整であったりも看護師がしてる場合が多いね。それは調整とかは、結構時間がかかってしまったりすると、なかなか回らなくはなりますね。

鈴木 なるほど。じゃあ、年齢というよりも、そういう病状の。

野瀬 そうです。

鈴木 進行で大変な、なるっていうことなんですね。ふーん。ということはやっぱり看護師さんが、えっと、空いてる時間に合わせて、携帯とかパソコンやらざるを得ない。

野瀬 そう、そうです。

鈴木 どの、どのぐらいの時間、例えばパソコンやれる、やれるとか、そういう時間って決まってるんですか。

野瀬 うーん。僕が退院する 1 年前くらいかな。病院が、病院、病棟がルールを決めはって。10 時からと、あとは昼は 2 時からかな。2 時から寝るまで。朝は多分 10 時から、まあ、ご飯までは。で、一応まあ、パソコンなりゲームなりをする時間。ていうと 10 時前後ぐらいから、まあ、どの道やっとなんか看護師が一斉に準備を、順番に回って行ってやらはる感じです。

平日は療育指導室の方が 10 時から順番に上がって行ってやらはる感じですね。

鈴木 じゃあ、その、一応やっていただいたらもう 12 時までとか、で、その後ご飯食べて 2 時からとかから、まあ、寝るまで、ずーっとやることって可能なんですか。

野瀬 あ、ずっとは可能。

鈴木 あ、それは可能ですか。なんか長過ぎだとか、そういうことは言われたりはしない。

野瀬 まあ、特に。ただやっぱ、まあ、病院なんで途中で処置が入ったり検査が入ったりして、(\*\*\*\*ゲンミタリエナイ@00:39:23)ことは多いですけど。

鈴木 いったんこれ調整をしてもらったら、その後って何かこう、手助けとかって必要ですか。

野瀬 まあ、人によっては、まあ、随時来たりして、ちょっと直してほしいとかは。

鈴木 ああ。

野瀬 やってくれるとは思うんですけど。

鈴木 ああ、そうですか。じゃあ、そのときはナースコールを呼ぶ。

野瀬 そうです。

鈴木 ふんふん。でもやっぱ時間はかかるっていうことなんですかね。

野瀬 人によっては。

鈴木 ふーん。看護師って何人ぐらいいるかっていうのは覚えてらっしゃらないですよ。

野瀬 全員ですか。

鈴木 ええ。

野瀬 全員で 30 いるかいらないかじゃないですか。

鈴木 30 いるかいなか。療育指導室っていうのは、保育士さんと指導員さんと介助員さんがいるんですけど。

野瀬 いや、介助員はどっちかと言うと病棟の人いるから、看護師とかと一緒に。

鈴木 ああ、そうですか。保育士さんと指導員さんって何人ぐらいいるもんなんですか。

野瀬 保育士が3人かな。で、指導員が2人とかかな。

鈴木 ああ、そうですか。

(無言)

鈴木 で、あの、院長先生って、ずっと同じ人だ、でしたか、野瀬さんいらっしやったときって。

野瀬 いや、2、3回変わったと思う。

鈴木 2、3回変わった。最初の方って、な、まあ、どういう方っていうか。

野瀬 最初の方はあんま記憶にはないです。

鈴木 ああ。で、その後新しい方が来て。

野瀬 そうそう。

鈴木 あの、なんか、ど、どういう方が院長になるんですか。

野瀬 いや、よく分からない。

鈴木 よく分からない。院長のお考えって、やっぱり、あの一、日々のこう、ケアのあり方とかに影響は、ありますか。

野瀬 うーん。どうなんだろうな。僕が退院したときと、今の院長(###@00:42:36)、僕退院したときにいあった、い、院長なんですけど。その人、いろいろなんか、病院を変え

ていこうとしてはって、今までやらへんかったようなことを、なんかピア、ピアニスト。ピアニストじゃないです、ピアノ弾く人を呼んで病棟でミニライブを開催したり。

鈴木 ミニライブ。

野瀬 多分、音楽療法なのかと。音楽療法の先生を呼んで、週、月に 3、4 回やったかな。やらはると(#####@00:43:21)。用意してはった。

鈴木 ふーん。では先ほどの、例えば病棟から出てはいけないとか、そういう方針っていうのはどちらかと言うとと言うと看護部長とか、そういうレベルですか。院長というよりも。

野瀬 (#####@00:43:47)、多分、主治医とかかもしれない。

鈴木 あ、主治医。ふーん。

野瀬 僕が聞いたのは、その高校のときに学校に行けなくなりますって聞いたのは、その指導室の一番偉い人に聞いたんですけど。

鈴木 指導室ですか。

野瀬 療育指導室。

鈴木 ああ、療育指導室の一番偉い人。でもその学校行けなくなるっていうことを決めたのは看護部長とかそのレベル。

野瀬 か、先生か、その辺の人。

鈴木 あ、先生。

野瀬 主治医か。

鈴木 主治医か。

野瀬 そのときの院長か。

鈴木 うーん。

野瀬 僕はよく分からないですけど。

鈴木 分かんない。鳴滝の校長とかではないですよ。

野瀬 違う。校長は行かしてあげたいとは言った。

鈴木 ああ、おっしゃってましたか。うーん、なるほどね。院内学習って今でも続いているんですか、後輩。

野瀬 今でも続いていると思います。

鈴木 ああ、そうですか。

野瀬 それで、今小学校の子は多分、呼吸器ついてないから、普通に学校まで行っていると思いますけど。

鈴木 高校生でしたっけ、なんか、呼吸器つけてる人って。

野瀬 そうそう、気管切開の人いるけど。

鈴木 ああ、はい。

野瀬 まあ、呼吸器はつけてはないんですけど。

鈴木 ああ、はあはあ。

野瀬 (\*\*\*\*ヤカンシ@00:45:34)。

鈴木 じゃあ、その方は院内学習っていう。

野瀬 恐らく。

鈴木 うーん。

野瀬 看護師を呼んだら立派に学校に、には行けるんですけど。

鈴木 はい。

野瀬 その看護師呼ぶのも結構、1時間8000円とか先生が言ってはったから。

鈴木 1時間8000円。

野瀬 恐らく。

鈴木 え、ごめんなさい、えっと、看護師を呼んで。

野瀬 呼んでたら多分1時間当たり払わなあかんのが8000円とか。

鈴木 え、つまりあの、学校に行くってことですか。

野瀬 そうなの。まあ、僕らはもちろん負担はしないですけど。

鈴木 はい。

野瀬 学校か教育委員会が払うみたいなの。

鈴木 ああ。その、病棟の看護師さんに手伝ってもらっただけで1時間8000円ってことですか。

野瀬 いや、病棟、外部の看護師さん。

鈴木 ああ、外部の看護師。うーん。

(無言)

鈴木 あのー、えっと、基礎年金をもらうようになったのは20歳以降ですよ。

野瀬 そうですね。

鈴木 で、えっと、それまでお小遣いとかお金っていうのは、お父さまからのお仕送りですか。

野瀬 いや、父には小学生のときから、小学生のときぐらいしかもらってなかったんで。

鈴木 はい。

野瀬 もうお年玉とか。

鈴木 はい。

野瀬 高校卒業してすぐに。福祉工房、ピアノ(\*\*\*\*ピーティ@00:47:29)、就労支援B型の事業所と個人契約を結んで、一応デザイナーをやってたんで。こないだ見せた写真の。

鈴木 いくらか、じゃあ、収入が発生して。

野瀬 まあ、それこそお小遣い程度しかもらえないですけど。

鈴木 あ、そうですか。そのお金って通帳とかで管理されてますか。

野瀬 いや。うーん、現金でもらってた。

鈴木 現金でもらって。で、それどうやって管理されるんですか。

野瀬 まあ、指導室の人と一緒に財布に入れてもらってとか。

鈴木 財布ってどこに保管されてるんですか。

野瀬 財布は一応その机にセーフティーボックスっていう簡易的な金庫が付いてたんで、そこに入れて保管してましたね。僕も。

鈴木 あ、そうですか。ふーん。通帳持ってる人っていらっしやらないんですか。

野瀬 通帳は僕も一応持っただけです。

鈴木 あ、そうですか。

野瀬 でもおろすのが病棟にATMがないので、病院行かないと。ATMできたのが割と僕が退



院する 1、2 年前とかかな、話なんで。

鈴木 その ATM はじゃあ、全ての銀行で一応。

野瀬 使ったことないんで。

鈴木 あ、そうですね。ふーん。それはやっぱ前もって、そういう ATM とかあったほうがよかったですか。

野瀬 そのほうが僕は、その、盗難とかが心配やったんで、おのずとして親に頼んでたですけど。(#####@00:49:47)人は便利だったんじゃないですかね。

鈴木 あ、なるほどね。でもやっぱりそこまで行くのにも、看護師とか保育士の手伝いが必要だから。

野瀬 ていう人もまあ、中にはいると思いますけど。

鈴木 ああ、なるほど。

野瀬 僕らみたいに完全に任せてしまうのはなかなか怖い面もある。

鈴木 ああ、なるほど。セーフティーボックスのほうが、じゃあ、安心ですか。

野瀬 あんま大金は置かんようにはしてましたけど。

鈴木 ああ。

野瀬 まあ、ただ、まあ、僕らの場合(#####@00:50:29)から。

鈴木 はい。

野瀬 鍵の場所を覚えてる人は覚えてるかもしれないんで。

鈴木 はいはい。

野瀬 あの、とられる可能性も。

鈴木 うーん。

野瀬 ゼロではないです。

鈴木 うーん。うーん。今は通帳ですよ。

野瀬 今は通帳ですよ。

鈴木 ああ。

野瀬 今はヘルパーと一緒に銀行行っておろすようにしてる、僕の目の前で財布やらはるからあれなんですけど。

鈴木 あのー、盗難のなんかそういう事故、事故というか事件とかありましたか。

野瀬 いや、あんま聞いたことないです。

鈴木 聞いたことない。例えばカメラとか何かとかがなくなるとか。そういうことは聞いたことないですか。

野瀬 は、ないですね。

鈴木 あ、そうですか。うん。でもやっぱり気持ち的にはでも、そういうことがあり得るっていうふうに思ってしまうってことですよ。

野瀬 うん、まあ、親子なんだ。相模原の事件とかもあったから、(\*\*\*\*コウハンデ@00:51:54)。

鈴木 ああ、はいはい。

野瀬 どんな職員がいるかも分からない。

鈴木 なるほど、職員ね。

野瀬 極力お金は病院の置く、置かんようにしろっていう、お父さんから言われてて。

鈴木 そうですか。

野瀬 そんな持っても1万以下とか。

鈴木 あ、そうですか。

野瀬 5000円とかで。

鈴木 うん。通帳はどういうふうに管理されてましたか。

野瀬 通帳はもう病院がお父さんに預けてたり。

鈴木 あ、お父さまに。やっぱりびょう、病院ででも預けることって可能なんですか。

野瀬 いや、誰かに預けてるよ、多分。預かってくれないと。

鈴木 ああ。じゃあ、他の患者さんの皆さんも、あの、ご家族に。

野瀬 いや、持ってる人もいらはりました。

鈴木 あ、いらっしゃいましたか。じゃあ、それはそれぞれがセーフティーボックスみたいな  
なとこに入れとくってということですか。

野瀬 まあ、人によっては普通に、(\*\*\*\*ナンカイモ@00:52:50)掛かってないところに、  
セカンドバッグに入れて置いてる人とかはいはりましたけどね。僕は怖いなど思いながら  
見てましたけど。

鈴木 そうですよ。いや、患者さんがそれはとるっていうことは、まあ、考えられない。

野瀬 それは対人なんで。

鈴木 うーん。

野瀬 どんな人がいるか。

鈴木 ああ。

野瀬 人によると思って。

鈴木 動ける方はいらっしゃるわけですよね。

野瀬 そうそう。

鈴木 ふーん。

野瀬 不在の間に狙われたりするかもしれない。

鈴木 そうですよね。とりわけ4人部屋とかだと。

野瀬 多分もう把握しちゃってるから。あの人、あそこに置いているとか。

鈴木 ああ、分かっていますもんね。で、あの、部屋の扉ってのは、あい、開いてたりとかするわけでもんね。他の人が。

野瀬 全部、全部屋開いてる。個室以外は。

鈴木 ていうことは誰かがこう、入、あ、ごめんなさい。誰かが入ってくることってありましたか。

野瀬 ああ、ありましたね。

鈴木 あ、か、勝手についていうか。ふーん。え、入るときのなんかルールとかって、あの、特にない。誰でも入れるみたいなあれですか、患者さん。

野瀬 誰でも入れる。

鈴木 あ、そうですか。うん、なるほどね。

野瀬 まあ、今はコロナ禍なんで。

鈴木 はい。

野瀬 厳しくなってる。

鈴木 あ、もちろん今はそうですけどね。うーん。

(無言)

鈴木 やっぱ前なんかおっしゃってたのは、その一、携帯の(\*\*\*\*アソコ@00:54:25)をとおして、あの、子どもの頃のなんか付き合いがあった人と連絡取らなくなったっておっしゃってたと思うんですけど、それ支援学校の人ですか。中1ぐらいから始められたんですよね、携帯を。

野瀬 そうそう。で、僕、SNS 使い始めたの高校からなんで。

鈴木 あ、高校。

野瀬 高校からタブレットをお父さんに。

鈴木 あ、そうですか。

野瀬 買ってもらって。

鈴木 あ、そうですか。

野瀬 まあ、そこで、まあ、SNS 始めたときに、昔の知り合いとかが、まあ、出るようになって、連絡取ってみたら返ってきたりはしましたけど。

鈴木 あ、そうですか。え、そのかたがたって、ごめんなさい、えーと、学校の。

野瀬 まあ、学校の(####@00:55:17)。お世話になった先生とか、先輩とか。

鈴木 あの、例えば先輩とかと連絡を取って、つまり高校とかですよ。で、その皆さんて大体ご家族と一緒にいらっしゃる人たちとか。

野瀬 多分。

鈴木 ああ、そうですか。じゃあ、そのときに自立生活してる人なんかはいらっしやらなかった。

野瀬 いや、いはります。

鈴木 いました。じゃあ、あの、卒業した後にこう、訪問される、あの、先輩のことと違って、今その SNS を通じて何となく分かるってということですかね。

野瀬 そうです。

(無言)

鈴木 そういう意味でやっぱ SNS ってすごく、やっぱり重要じゃないですか。

野瀬 そうですね。

鈴木 で、オオヤブさんともやっぱりそれをとおしてってということなんですかね。

野瀬 いや、オオヤブ君とは幼なじみなんで、まあ、連絡先とかも普通に知ってはいたんで。

鈴木 あ。それはじゃあ、普通のメールで。

野瀬 そうですね。

鈴木 あとあの、病院の中に自治会とかってありましたか。

野瀬 いや、聞いたことない。

鈴木 患者会とか。そういうことはないですか。

野瀬 (#####@00:57:00)。

鈴木 そういう、つ、あの、活動しようという動きもなかった。

野瀬 そうですね、多分。

鈴木 ああ。親の会っていうのはありましたか。

野瀬 親の会はありましたね。

鈴木 ありました。えっと、会長、副会長がいてって。

野瀬 恐らく。

鈴木 うん。

野瀬 僕のそこは入ってなかったんで。

鈴木 あ、入ってない。あの、その会の中に入っていない。じゃあ、入る人と入らない方がいらっしゃる。

野瀬 そうですね。

鈴木 ふーん。規模的にどのぐらいかっご存じですか。何人ぐらいいるのかとか。

野瀬 半分は入ってた。

鈴木 半分は入ってた。

野瀬 指導が(\*\*\*\*ゲンジツキョウカイ@00:57:44)なんで。まあ、他の人(####@00:57:50)の家族しか入れないのかなと思ってたんですけど。僕の友達のお父さんが、たまたま会長さんかなんかで、友達に聞いたら別にキンジツじゃなくても入れるよって言われて。

鈴木 ああ、はあ。そうですか。あの一、一応その、えっと、家族会っていうのはもう、むか、前からあるわけですね、野瀬さんがもう。

野瀬 そうですね、多分。

鈴木 で、例えばその一、先ほどの、あの、学校に行けなくなったっていう高校1年。で、そんときにカンジュ、ああ、あの、病院の家族会が何か言うってことはなかったんですか。

野瀬 その親の会に入ってる子どもの数くらいなかったね。

鈴木 ああ、なるほど。うんうんうんうんうん。関係者ではなかったということですね。

野瀬 そうです。

鈴木 例えばその一、先ほどの移転に伴って病棟から出られなくなるとか、それに対して家族会から何かこう、異議申し立てすることってなかったんですか。

野瀬 うーん、聞いたことはないですね。

鈴木 聞いたことがない。うーん、なるほどね。

野瀬 そもそも親の会の建物が、前、移転前は病棟と引っ付いて、ほぼ併設されてたんですけど。ま、移転後は、ま、学校研修で徒歩5分ぐらいかかる場所になって。まあ、もちろん入院患者のご家族なんでご年配の方がほとんどなんで、その上り下りがしんどいと言ったらしく。

鈴木 あ、そうですか。あ、年配の方が多いんですね。あ、そうですか。え、比較的、ごめんなさい、新しくこう患者さんとして入って来られる人って、ど、それはやっぱり毎年いらっしゃるんですか。

野瀬 いや、(\*\*\*\*ダノガ@01:00:13)。

鈴木 ほとんどいない。

野瀬 ほぼいない。

鈴木 ほぼいない。ということはまあ、入られたらもう基本的にずっとそこにいらっしゃる人が多くて。

野瀬 そうです。

鈴木 そうするとご家族の年齢が高齢になって。

野瀬 そうですね。



鈴木 なるほどね。そうするとその、そのかたがたがまあ、何かこう、何かこう病院とは違うことを言うってのは難しいことなんですかね。

野瀬 そう。

鈴木 ふーん。

(無言)

鈴木 あとあの、病院の中であの、サークル活動とかありましたか。

野瀬 は、ありますね。

鈴木 どういう活動があるんですか。

野瀬 うーん、2、3個あったのかな。

鈴木 2、3個。

野瀬 僕がやってたのはカラオケサークルと。

鈴木 はあはあはあ。

野瀬 あとは七宝焼っていう焼き物をこう、デザインしてつくる、なんかサークルと。

鈴木 はい。

野瀬 あと、ああ、絵画サークルかな。男はやってました。あとビーズ。

鈴木 ビーズ。

野瀬 だと四つか。

鈴木 野瀬さん入られてたのがどれですか。

野瀬 いや、その四つともやってみました。

鈴木 あ、四つともやってて。で、四つあって四つとも入ってた。

野瀬 四つか。一応パソコンサークルっていうのもあるんですけど。

鈴木 はい。

野瀬 そっちはほぼ、あの、ネット使うために入るためのあれなんで、ほぼ全員が入ってる。

鈴木 会費とかってあるんですか。

野瀬 会費は入会費はありました。

鈴木 全てのサークルにですか。

野瀬 いや、そのパソコンだけ。

鈴木 あ、パソコン。ま、前おっしやってた。

野瀬 ええ。

鈴木 えっと、おいくらでしたっけ。

野瀬 いくらやったかな。入会費がなんか(#####@01:02:29)こなかったの。1万5000とか。

鈴木 1万、あ、そっか。1万5000円ですよ。うーん。この七宝焼とかカラオケとかって、なん、どのぐらいの頻度で行われたりするんですか。

野瀬 カラオケは週、ちゃう、月1回で、七宝焼はほぼ毎週。

鈴木 絵画も。

野瀬 絵画もほぼ毎週。

鈴木 毎週。ビーズも毎週。

野瀬 ビーズは月 1。

鈴木 月 1 回。どこかに皆さんお集まりになるってことなんですか。

野瀬 うーん。(###@01:03:24)は集まる。移乗制限が掛かる前までは、座談会とかで話があったんですけど。で、プレイルームっていう、いう場所が病棟の中にあって。主に療育指導室が管理をしてるんですけど。

鈴木 はい。

野瀬 そこは全部がサークルとか(\*\*\*マワシモノ@01:03:58)とか。

鈴木 えっと、何人ぐらい集まるんですか、その、例えば、七宝焼とか。

野瀬 何人。5、6人ですかね。

鈴木 5、6人。じゃあ、大体そのぐらいでやるって感じなんですか、カラオケも。

野瀬 カラオケはそうですね。

鈴木 ふーん。移乗セイ、ごめんなさい、移乗制限っていつだったんですたっけ。それは外出の制限とまた違う。

野瀬 同時期ぐらい。

鈴木 同時期。

野瀬 虐待案件のときぐらいからなんで。

鈴木 移乗、つまりベッドから。

野瀬 そう、車いす。

鈴木 車いすに移乗すること自体が制限されているっていうことですね。うーん。で、それ

があった後っていうのは、サークル、もう今、参加できないってことですか。

野瀬 今は個別で、そのまあ、七宝焼やったら、焼く前、焼く前にまあ、いろいろ、周りにそのガラスの粉を置いたりするんですけど、まあ、その動画を持ってきてやらしてもらって、焼くのだけは、まあ、焼くのは毎回で、やってたわけではないんですけど。(#####@01:05:35)だけその場所に持って行っていい、指導室の人が代わりに焼いてくれはったりとか。まあ、カラオケも病室に持ってきはってそこで歌ったりとか。

鈴木 うん。

野瀬 まあ、ビーズもそんな感じです。

鈴木 なるほどね。移乗しないでじゃあ、サークル活動続けてたってことですか。

野瀬 あとは、集まらないんで。

鈴木 うーん。

野瀬 その、分かち合える人がいないんですよ。

鈴木 1人でやるっていうことですよ。

野瀬 ですね。

鈴木 ごめんなさい、さ、ごめんなさい、カラオケって、え、1人で。

野瀬 そうですね。

鈴木 あ、そうですか。それもなんかね。なんかすごい。

野瀬 面白くはない。

鈴木 すごいと言うか何というか。うん。

野瀬 まだ周りに何人かいて、いえーいとかやるんもやらずに。

鈴木 ハハハ。

野瀬 1人で歌って。自己満みたい。

鈴木 フフフ。ごめんなさい、他の病室の、にはいる、いらっしゃるわけですよね、3人。

野瀬 そうですね。

鈴木 この3人は別にカラオケに、のサークルではない人もいますよね。

野瀬 そうですね。

鈴木 ヘヘヘ。ああ、そうですか。でもまあ、いい、ハハ。そもそもなんで移乗制限ってのは出たんですか。

野瀬 うーん。それが僕らも理由がよく分かってないんですけど。

鈴木 うん。

野瀬 まあ、虐待案件があったときから厳しくなったっていう。

鈴木 うーん。

野瀬 ふうに思ってた。

鈴木 うーん。

野瀬 それ、虐待ってのがなんのつながりがあるのかよく分からないんですけど。

鈴木 ああ、なるほどね。つまりなんの説明もなく、あの、そういうことになりましたっていうこと言われるってことなんですか。

野瀬 言われ、まあ、何となくそういう空気になって。

鈴木 空気。あ、なんかこう。

野瀬 言われるわけではない。

鈴木 言われるわけではない。え、えと、でも、あの、今までの、あのその、プレイルームに行ってたわけですよね。

野瀬 そうです。

鈴木 それ行けなくなるって言うことは言ってくれるわけですよね。

野瀬 な、んん、まあ、毎週毎週、まあ、きょうは乗りましょかみたいな。なくなったんですけど。

鈴木 はい。

野瀬 (#####@01:08:06)、忙しいから無理やみたいになって、だんだんそのうざがられて。で、まあ、けん、あなたは骨折のリスクがあるからこれからあんま乗らないでくださいみたいなことを、突然言われたりして。

鈴木 ええ？ え、でもそれ、ごめんなさい。えっと一、でも全て、い、移乗制限って全部のあれですか。もう。

野瀬 いや、まあ、気管切開の人に。

鈴木 あ。

野瀬 やたらそれは言うてはった。

鈴木 じゃあ、それ以外、あ、ごめんなさい。じゃあ、ごめんなさい、それ以外の人もいるわけですよね、気管切開していない。

野瀬 いない人ももちろん。

鈴木 その人たちはサークルどうされてたんですか。

野瀬 どうしてたのかな。多分プレイルームに行ってる。

鈴木 あ。

野瀬 人もいれば、部屋でやってる人もいたと思うんですけど。

鈴木 あ、じゃあ、行ってる人もいるんですね、プレイルームに。

野瀬 恐らく。

鈴木 ああ、じゃあ、この移乗制限っていうのはとりわけこういう気管切開した医療的ケアの人だけに、こう、何ていうの、なんですかね、制限がきてる。

野瀬 まあ、呼吸器ついてる人。

鈴木 呼吸器つけてる。

(無言)

鈴木 うーん、なるほどな。あとあの、病院の中で行事とかってありましたか、なん、なんか、お祭りだとか。

野瀬 病院ときは、年4回ぐらいあった。季節に合わせた行事が。

鈴木 ああ、そうですか。

野瀬 新年会とか、4回以上(#####@01:09:40)。新年会、卒業、あとまあ、女の人限定でひな祭りとか。あとはこどもの日は子どもらだけでなんかやってたと思いますけど。あとは七夕と、なんか6月ぐらいに(\*\*\*\*タイク@01:10:11)。韓国青年会議所っていう会議所さんが、なんか企画してくれて、私もなんかマジックショーであったり。あとまあ、あの、料理の鉄人の坂井シェフを呼んできたり。

鈴木 フフフ。

野瀬 別に何を食べさしてくれるわけでもない。

鈴木 フフフ。(#####@01:10:44)。えーと、そのときって鉄人はなんか作ってくれるんですか。

野瀬 いや、何も。まあ、前まではプリンを持ってきてくれはったりしたんですけど。

鈴木 うん。

野瀬 最近はどうなもんかな。食事制限掛かるようになったんで、あの、寄付に変わったんですけど。なんかパソコンであったり。で、8月は夏祭りで、9月はなんかあったかな、9月はなんかなかったかな。(#####@01:11:29)。あとは12月か、クリスマス会しはったり。

鈴木 例えば夏祭りとかのときに、地域の人と交流することってありましたか。

野瀬 いや、特に。

鈴木 どう、どうやってやるんですか、夏祭り。

野瀬 療育指導室が。

鈴木 ああ。

野瀬 企画して。

鈴木 ああ。

野瀬 もうクイズ大会しはったり。

鈴木 なるほど。

野瀬 デザイン大会っていうの、一緒にやらはるんで。

鈴木 うん。

野瀬 行燈とか風鈴の、病棟の食堂に飾って、誰のがいいかを投票形式にして1、2週間飾って、それを見た人に投票してもらおう。

鈴木 それは野瀬さん参加されてて、ど、どうでした。



野瀬 うーん。僕、当時はそのときデザイナーやってたんで。デザイン大会はちょっと、個人的な意見やけど、賞を取ったところで僕はそんなうれしくはなかった。

鈴木 フフフ。

野瀬 ほんまデザイナーさんが評価してくれるとかやったら僕のモチベーションも上がった(#####@01:13:00)言うて。素人が出てるから。

鈴木 なるほどね。他の患者さんたちもそれ、参加結構されてたんですか、皆さん。

野瀬 そうね。絵描くの好きな人。

鈴木 ああ、そうですか。うーん。

野瀬 まあ、何個か賞があつて。

鈴木 ああ。ふーん。でもまあ、楽しみにされてる人もいた。

野瀬 そうそう。

鈴木 でもこんなの楽しくないっていう人もいたんでしょうかね。

野瀬 あと参加してない人はそういう(#####@01:13:43)。

鈴木 フフフ。参加率ってどんなもんなんですか。

野瀬 参加率。

鈴木 ほぼみんなとか。

野瀬 いや、3分の1ぐらいじゃない。

鈴木 フフフ。そうですか。あんまりですね、じゃあ、参加者って。30パーセントですもんね。は一、なるほど。じゃあ、地域となんか関わるような、そういう行事はないっていうことでもんね。

野瀬 強いて言うならその6月、青年会でちょっと。

鈴木 ああ。

野瀬 がい、外部の。

鈴木 ああ、まあまあ。

野瀬 入ってくるの忘れない。

鈴木 ああ、なるほどね。うーん。

野瀬 あ、そっか。あと外部が入ってくれたの、4月に春の歌祭りみたいなんで、歌手の人が。いや僕その人と一応つながりはあるんですけど。

鈴木 ああ、そうですか。

野瀬 その人が歌いに来るから。

鈴木 歌いに来る。え、毎回来るんですか。

野瀬 今はどうか知らないですけど、当時はその、ほとんど患者さんと知り合いやってみた  
いで。

鈴木 へー。

野瀬 その患者さんが療育指導室に、こういうのはどうですかって。

鈴木 うん。

野瀬 掛け合はって。

鈴木 ふーん。

野瀬 実現したみたい。

鈴木 そうですか。じゃあ、比較的何回も来てくださって。

野瀬 そうですね。

鈴木 歌手の人ですもんね。

野瀬 そうそう。

鈴木 でもなんか病院で暮らして、なかなかやっぱり娯楽に触れる機会がない中で、まあ、そういうふうにやってくれるっていうことは、す、す、なんかまあ、少しは安らぎになったりとかするんですかね。

野瀬 まあ、気分転換には。

鈴木 ああ。

野瀬 いつ起きちゃうことが起きるように。

鈴木 うん。あとあの、途中であの、障害関係の法律が、人身法っていうのができて、療養介護ってのができるじゃないですか。それってなんか変わったこととあってありました、それによって。

野瀬 うーん。

鈴木 中で。

野瀬 変わったこと。半年に1回、そのモニタリング調査っていうのを聞き取りをされるようにはなりましたね。

鈴木 つまりあの、それ相談支援事業のあれですよ。

野瀬 そうです。それ、療育指導室の(###@01:16:28)。

鈴木 ということは療育指導室の中には相談支援専門員さんがいらっしゃる。

野瀬 その指導員とトップの人と保育士のトップが当時はやりましたね。

鈴木 そのき、利用計画ってどんなことを書かれるんですか。

野瀬 うーん。利用計画。どんなことだったかな。これからどうしていくとか。

鈴木 ああ。

野瀬 長期の目標とか。

鈴木 うん。

野瀬 短期目標とか。

鈴木 ああ、長期目標、短期目標。それ療養介護について。

野瀬 多分そうやったと思う。

鈴木 そのときに例えば変な話、重度訪問介護ってありますよとか、そういうことは。

野瀬 は、特に。

鈴木 あ、そうですか。

野瀬 ああでも、知らん人も多いね。

鈴木 あ、知らない人も多い。例えば野瀬さんの場合就労 B、B って言うかその、個人契約ですけど。

野瀬 制度があって2重にできないから。

鈴木 ですよ。

野瀬 個人契約を。

鈴木 うん。

野瀬 ちょっと当時の紙があったかもしれない。見てもいいですけど。当時のそのモニタリングのシートを僕まだ持ってたかもしれない。

鈴木 ああそうですか。またちょっと、もしあれば。

野瀬 (#####@01:18:10)。

鈴木 でもある意味、今ごめんなさい、相談支援専門員さんが一応ケアプラン立てると思うんですけど、選択肢としては療養介護しかないのかなっていう。

野瀬 ああまあ、セルフプランとか。

鈴木 ああセルフ。でもセルフプランって、でもそういう話、この相談支援専門員さんありますよとか、話聞い・・・。

野瀬 (#####@01:18:32)。

鈴木 ですよ。

野瀬 僕も JCL に聞いて初めて知った。

鈴木 ですよ。だから一応このホームページ見たんですけど、患者さんのなんか、あの、人格とか同意に基づいたっていうふうには書いてあるんですけど。

野瀬 ああ。

鈴木 でも選択肢が全然提供されてないように見えるんですけど。

野瀬 そうですね。

鈴木 はい。こういうものもありますよとか。例えば退院っていう選択肢はもちろん出されてないですよ。

野瀬 出されてない。

鈴木 病院の中にいるっていう前提で何をするかっていうことですか。

野瀬 そう、そうですね。

鈴木 モニタリングってどんなことを聞かれたりとかするんですか。

野瀬 うーん。まあ、これからどんなことがしていきたいかとか。

鈴木 ああ。

野瀬 さっき言った短期目標とか、長期目標どうするか聞かれたり。

鈴木 で、そのときデザイナー関係のこと言ったりとか。

野瀬 そうですね。

鈴木 あ、あとあの、あの、19 のときにオオヤブさんたちのボランティアと一緒に出掛けるじゃないですか。

野瀬 ええ。

鈴木 で、その人がヘルパーで(\*\*\*\*ジュウホウ@01:19:54)の資格持ってるじゃないですか。そのときって野瀬さんご自身は不安でしたか、安心でしたか。

野瀬 うーん。医療ケアをしてもらったことはないんで。

鈴木 ああ。

野瀬 若干の不安はあったんですけど。

鈴木 なるほど。

野瀬 まあ、僕はもともとそんな、吸引とか頻繁に頼むあれじゃなかったんで。

鈴木 あ、でももしそういうときがきたら、頼もうと思ってましたか。

野瀬 そうですね。

鈴木 だから行ったわけでもんね。あの一、本当の希望としてはやっぱりそういうヘルパーさんに、(\*\*\*\*サンゴウ@01:20:36)研修みたいに野瀬さんの医療ケアを、研修してから行きたかったとかありますか。

野瀬 うーん、(####@01:20:43)一応そんなとき担当の看護師に頼んでレクチャーはしてもらったんで。そこは安心やったんですけどね。

鈴木 あ、担当の看護師からレクチャーを受けてるんですね、そのヘルパーさんは。

野瀬 ただそれがよかったのかどうかは微妙なところです。

鈴木 へー。でも、あっ、でもそれはやってらっしゃったんですね。そうですか。それは特に主治医さんからそういうことは何か、それについては言われなかったですか。

野瀬 いや、特に言われてない。気付いてなかったのか。

鈴木 ああ。それじゃあ、看護師さんも快く引き受けてくれて。あの、どのぐらいの時間やるんですか、そのレクチャーって。

野瀬 30分もかからないね。

鈴木 ああ、そうですか。で、それで一応野瀬さんは安心できたのか。

野瀬 そうです。

鈴木 あるいはもっとなんか、何ていうのかな、まあ、それとジュウホウの研修はどう違うっていうのはありますか？ サンゴウ研修で。

野瀬 まあ、ジュウホウのサンゴウ研修のほうが丁寧、丁寧に言うか、1から全部教えてくれるというか。という感じなんで。僕が勝手にやったときは要所要所だけやったから。

鈴木 うん。

野瀬 そういうところかな。

鈴木 うん。じゃあ、まあ、本来、本来っていうかその一、できればその一、ジューホウの研修みたいにやったほうがよかったんじゃないかっていう。

野瀬 そうですね。

鈴木 ふーん。

野瀬 まあ、一応チェックシートみたいな持ちながらサンゴウ研修はやらはる。で、それを2回やって、2回とも難なければ合格みたいな感じ。

鈴木 なるほどなるほど。やっぱりそこはじゃあ、丁寧にやったほうがいいんじゃないかっていう。

野瀬 そうですね。

(無言)

鈴木 あの一、ウダノ病院を。

野瀬 ええ。

鈴木 退院するときの条件とかってあるんですか。

野瀬 うーん、もともと主治医があんまり乗り気ではなかったんで、僕が退院する、まだ19のときから退院したいってもう伝えてて。それが僕のお父さんが、僕のお父さんの方針自体が、子どもらのしたいようにさせるっていう方針なんで、お父さんは応援はしてくれてたんですけど。主治医が、ああそうですかみたいな感じで、なかなか取り合ってもらえず。で、まあ、もともとはきっかけが、まあ、座談会でも話したんですけど、えっと、まだ僕と親(#####@01:24:08)の共通の友達の家みんなで遊びに行ったときに、1人暮らし楽しそうやなってなって。で、まあ、泌尿器関係のトラブルが、僕、当時は多くて。今ウダノに泌尿器科がないんで。ウダノ病院と京都の私立病院を行ったり来たりしてて。で、そん中で病院の対応が全く違うなと思って。で、まあ、ほんまは私立病院に今こうやったら多分残ってたと思うんですけど、だから私立病院がそういう場所ではない。んで、まあ、それやったら友達も1人暮らしして(#####@01:25:04)を利用して楽しそうにやってるから、1人暮らししたほうがいくなって思って、まあ、お父さんとか周囲に言って、まあ、主治医は聞いてはくれていたんですけど。



鈴木 じゃあ、もう19のときに、お父さまと野瀬さんは主治医に退院したいっていうことは伝えていたということですか。

野瀬 そう、僕からは伝えた。お父さんから言ってたかはしらないですけど。

鈴木 ああ。でもお父さまと野瀬さんをご相談されて。

野瀬 そうです。

鈴木 もう好きにやったらって。何かあれですか、そのときにお父さまから、ふ、不安な声とかは聞かなかったんですか。

野瀬 いや、うん、どう思ってるかは知らないですけど。

鈴木 うん。

野瀬 聞いたことはないです。

鈴木 じゃあ、潔く、もう。

野瀬 そうですね。

鈴木 好きなようにっていう。え、その話を、野瀬さん、お父さまに最初にされたときって、お父さまはなんておっしゃってましたか。

野瀬 そのお父さんも僕の友達のことを知ってるんで、多分、まあ、できるっていうことは分かってたと思うんで。じゃあ、まあ、車いすとか、ああいう家探さなあかんみたいなの。まあ、普通に乘ってくれた感じですね。

鈴木 へー。

(無言)

鈴木 でも友達のことをお父さんが知っていたっていうのは、やっぱり学校で一緒。

野瀬 幼なじみやったんで。

鈴木 あ、幼なじみ。

野瀬 オオヤブ、オオヤブくんよりも長い幼なじみなんで、それこそ。

鈴木 なるほどね。えっと、ごめんなさい、幼なじみっていうのはその、学校でこう、よく会ったりとかするっていう。

野瀬 小学校のときから、前言ったみたいに、しょうが、まあ、その支援学校の人数が少なかったんで。

鈴木 うん。

野瀬 学年は違っても同じクラスになってたりしたんで。もうそのうちの1人ですね。

鈴木 その人はあれですよ、親御さんと暮らしてたわけですね、そのとき。

野瀬 まあ、その人もウダノに高校までいて。

鈴木 あ。

野瀬 高校卒業と同時、ほぼ同時ぐらいに。

鈴木 あ、そうですか。

野瀬 実家に戻って、実家から1人暮らしを始めはった感じです。

鈴木 ふーん。じゃあ、ずっとじゃあ、病院にいた人なんですね。高校まで。

野瀬 (#####@01:28:00)だよ。

鈴木 そうですか。じゃあ、え、(\*\*\*\*ハナヤ@01:28:04)、じゃあ、お父さまとそのお友達のご家族との関係があったってことですか。

野瀬 いや、そこは関係は。ほぼしゃべったことないと思います。

鈴木 あ、それはしゃべったことがない。

野瀬 向こうはないですけど、向こうの親。

鈴木 あ、そうですか。なんか、なんて言うんですかね、野瀬さんにとってやっぱりそれってすごく安心できます？ つまり同じ病院にいる人でも、よく知っている人が 1 人で暮らしているってということで、自分でもできるんじゃないかって。

野瀬 そうですね。

鈴木 これが全然違う人だったらどう思ったんですかね。

野瀬 まあ、僕ね、そのときから医療ケア、医療的ケアが多かったんで。

鈴木 はい。

野瀬 JCL に会うまでは、ああまあ、これも先生にしてもらわなあかんし、これもなしにしてもらわなあかんし、これじゃあ、僕、出れへんなどは思ってたんですけど。

鈴木 あ、はい。

野瀬 まあ、でも JC に出会ってから、全然医療ケアも大丈夫やでって言わはって。

鈴木 うん。

野瀬 (#####@01:29:21)も看護もやるし。

鈴木 うん。

野瀬 訪問医もやるから。

鈴木 うん。

野瀬 どうにでもなるよって言わはって。

鈴木 うん。

野瀬 で、まあ、じゃあ、僕でもできるんやってなった感じですね。

鈴木 なるほど。ただまあ、JC に会おう前に、あの一、その先輩がもう既に出てらっしゃってて。

野瀬 はい。

鈴木 それを見ても19のときに、あ、自分もできるんじゃないかって思ってたわいりゃるわけですね。

野瀬 とまあ、一瞬思いました。

鈴木 あ、それはやっぱりウダノ病院にずっと長いこといた人がそういうふうにしてるってことって、やっぱり勇気付けられたってということですか。

野瀬 そうですね。まあ、お互いどういう生活送ってたかまでは分かんないんで、同じ。

鈴木 なるほど。

野瀬 たち。

鈴木 うんうん。

野瀬 ほぼ同じ立場だったので。

鈴木 なるほど。え、ちなみにその方って気管切開。

野瀬 いや、鼻マスクです。

鈴木 鼻マスクですか。じゃあ、状況は違うけれども。

野瀬 まあ、似てはいる。

鈴木 似てはいるから。で、その方もやっぱり訪問医とか訪問看護師とか来てらっしゃって

て。

野瀬 そうです。

鈴木 そういうの見てらっしゃったってことですか。やっぱそのとき見たときって、あ、こういうふうにしてできるのかっていうふうに思ったってことですか。

野瀬 そうですね。

鈴木 ふーん。それまではやっぱり、病院にいないとそういうのは得られないっていうふうに思ってた。

野瀬 そうですね。

鈴木 うーん。(###@01:30:52)。うん。

野瀬 退院しても毎日看護師さんが来てくれるとは思ってなかったんで。

鈴木 じゃあ、訪問されたときって、そういうふうに看護師さんがいらっしゃる場面って見ましたか。

野瀬 いや、僕は見えてないです。

鈴木 見てない。だけど話を聞いて。

野瀬 まあ、主治医の先生が、今、同じなんで。

鈴木 なるほどね。いや、ごめんなさい。主治医の先生って今の地域の。

野瀬 そうですね。

鈴木 その主治医の先生とそのとき会いました、19歳のとき。

野瀬 は、会ってないです。

鈴木 会ってない。

野瀬 うわさは聞いてた。

鈴木 うわさは聞いて。じゃあ、ある意味その先輩の暮らしを見ただけで安心ができたっていうか。

野瀬 そうですね。

鈴木 うーん。なるほどね。やっぱ、見るのって全然違いますか。ぜん、話を聞くのと見るのって。

野瀬 そうですね。

鈴木 で、先ほどなんかあの、えー、退院の条件で、あのー、例えば家族っていうか、お父さまが退院させてほしいって主治医さんに言っても、主治医が拒否することってあるんですか。

野瀬 うーん、やっぱそれもモニタリングのときとかに、お父さん、療育指導室のほうから息子さんはこういうふうに言われてますけど、お父さんのご意向はどうですかみたいなことは聞かなくて、多分。それを受けて、あの、お父さんは、まあ、息子の意思を尊重してくださいみたいなことを言ったと思うんですけど。で、まあ、それはまた療育指導室の人が、まあ、師長とか先生に報告しはると思うんですけど。そのときは特になんの返事もなく、だからやんわり拒否された感じやと思うんですけど。

鈴木 なるほどね。うーんと、なんかちょっとよく分からないのが、その、結局入院するのも、あの、要するにご自身とかご家族の意思で入りますよね。

野瀬 そうですね。

鈴木 でも退院するときって、自分の意思で出られないってのはどういうことなのかなっていうふうに思うんですけど。

野瀬 うーん。僕はよく分かりませんが、その退院直前に、まあ、病院といろいろあって。

鈴木 はい。

野瀬 ただとりあ、とにかく、自分らが責任を取りたくないと思うんですけど、なんか起こったときに、事故とかが。

鈴木 うーん。えっと、でも契約、契約上は、なん、なんて言うんですか、その、医師のやっぱり許可は必要だっていうことなんですか。

野瀬 いや、まあ、強行突破しようと思ったら多分できる感じだと思うんですけど。

鈴木 できますよね。制度上はできますよね。

野瀬 医師になんの決定権もない。

鈴木 ですもんね。だけど患者さんの、き、お気持ちとしてはやっぱり、そこまでしてって言うふうに思われるんですかね。

野瀬 多分そうでしょうね。

鈴木 うーん。

野瀬 ただ僕がご飯食べられなくなったときも、ご飯が食べれなくなった時期があったって前に話したんですけど、もうそんなときは僕とお父さんから先生に、もうどうなってもいいから一筆でもなんでも書くから(#####@01:35:00)食べさせてほしいっていうふうにも拒否されたんで。

鈴木 うーん。じゃあ、そういう意向っていうのはなんか、要するに、その、うーんと、まあ、病院の中でのケアのあり方について意見を申し立ててるわけですよね。

野瀬 そうなんです。

鈴木 じゃあ、それに対して、うん。で、病院側は拒否したっていうことなんですもんね。

野瀬 そうですね。

鈴木 ふーん。さい、最後に退院するときって、ご自身がサインをされるんですか、ご家族とか。

野瀬 あんときは僕がサインした。

鈴木 ああ、サイン。主治医のサインもありますか。

野瀬 多分あったんじゃないかな。

鈴木 うん。お二人ですか。

野瀬 そうですね。

鈴木 うん。

野瀬 まあ、退院するきっかけが、まあ、結構ターニングポイント的なんがあって。

鈴木 はい。

野瀬 2019年とかかな、2018年かな、いや2019年、あれ。

鈴木 退院したのは2019年の7月とか。

野瀬 (#####@01:36:22)、そうそう。だから2018年の12月に。クリスマスの日。

鈴木 はい。

野瀬 あの、クリスマスシンポのとき。

鈴木 シンポ、はい。

野瀬 そのときに、まあ、僕も登壇して、ミタさんも登壇したんですけど。

鈴木 はい。

野瀬 そんなときに僕の思いを院長に伝えて、あとオオヤブ君も僕の友達がウダノに入院していて、ご飯を食べれなくて困ってるみたいなことを言ってくれはって。果たしてそれは病院に止める権利はあるのでしょうかみたいな質問しよったときに、まあ、院長が答えはって。



もちろん意思決定は本人にあるので、本人のしたいようにできるよう努力をするって言わは、まあ、あの、主治医がもし気に食わんとかあったときに、まあ、セカンドオピニオンとして第2の主治医として私が話を聞きますって、当時の医院長が言わはったんですけど。で、まあ、その直後にオカヤマさんとかコイズミさんと(\*\*\*\*ムカイゴハン@01:37:53)の交渉をしたんですけど、君の体ではとてもじゃないけど食べれないっていうふうに言わはって。

鈴木 どなたが。

野瀬 院長が。

鈴木 フフ。

野瀬 レントゲンとか見て。多分主治医がなんか根回しをしたのかもしれないですけど。で、まあ、言ってることと違うなと思ったんですけど、シンポと。

鈴木 フフフ。

野瀬 で、まあ、退院が、そんなとき割ともう3、4カ月前やったんで。そ、JCの人たちと相談して、まあ、僕はもうこれ以上別に、けんか別れをしたいわけじゃないから。退院するまでご飯を取りあえず我慢しますっていうふうに伝えて、ご飯は我慢して。まあ、でもそのシンポでもこの退院の思いとかを伝えたんで、まあ、それから、その次の年の1月くらい、主治医とか病棟の師長が動き出して、じゃあ、退院に向けて動き出しましょうかってなって、その1月からようやく退院に向けての動きが始まった感じですね。

鈴木 なるほど。じゃあ、やっぱりシンポジウム、やっぱ大きな意味があった。

野瀬 そうです。

鈴木 あの一、シンポジウムに院長を呼ぶことってどなたの提案でしたか。

野瀬 うーん。僕も声掛けが、声掛けられた人間なんで。

鈴木 あ、そうですか。

野瀬 よく分からないんですけど。

鈴木 あ、じゃあ、。

野瀬 多分 JC の方が。

鈴木 JC の方ですね。それ最初に聞いたときどう思いましたか。

野瀬 まだ J、院長と話す機会が。

鈴木 うん。

野瀬 患者もなかなかないんで。

鈴木 なるほど。

野瀬 回診はたまにあったんですけど。

鈴木 うん。

野瀬 それはほんまいい機会やったんかなと。

鈴木 うんうん。

野瀬 まあ、ただ全然ちゃうこと言ってきはって。

鈴木 フフ。

野瀬 びっくりはしたんですけど。

鈴木 院長を呼ぶことに不安はありませんでしたか。

野瀬 僕はなかった。その院長がちょうど、前の院長が退職されて新しい院長が入った 12 月の話だったんで。

鈴木 あ、そうですか。

野瀬 もうほぼなんも知らん。

鈴木 あ。

野瀬 状態なんで、逆に。

鈴木 うん。

野瀬 そこはよかったですね。

鈴木 なるほど。あ、じゃあ、新しい院長さんだったんですね。2018年12月から。

野瀬 (\*\*\*\*ドクシノ@01:40:47)、3月に前の院長が退職されて、4月から。

鈴木 あ、ごめんなさい。4月ね。

野瀬 就任して。

鈴木 はい。

野瀬 その12月以降も。

鈴木 はいはい。

野瀬 言うて多分なんも知らん状態やから。

鈴木 あ、かえってよかったと。ふんふんふん。でもなんかその結果、なんか、じ、あの、なん、なんて言うんですかね、一応病院関係者なので、なんか自分にとって不利になるんじゃないかとか、そういうことは思わなかったってことなんですね。

野瀬 多分そうです。

鈴木 あ、そうですか。じゃあ、もうそのときってある意味、野瀬さんの中でも絶対退院してやるぞっていう感じになってたってことですか、もう、クリスマスシンポのとき。

野瀬 まあ、ご飯困ってたんで。

鈴木 はい。

野瀬 取りあえず何としてもご飯を食べれるようにしたいと思いながら登壇したんですけど。

鈴木 なるほど。

野瀬 結局最後までかなわず。

鈴木 うーん。その、ごめんなさい。ご飯が食べれなく、あれ、えっと、なったのって、2018年になんか肺炎を疑われたってことですよ。

野瀬 そうですね。で。

鈴木 何月ごろだったんですか。

野瀬 肺炎を疑われたのは、肺炎いつなったかな。退院の1年前とかなんで、そういうなんか。

鈴木 2017年。

野瀬 その年の8月とか9月とか。

鈴木 あ、暑い時期に。

野瀬 やったかな。あんま細かく覚えてないですけど。

鈴木 で、そのときに、えっと、じゃあ、かなり、じゃあ、高熱とか、になった。

野瀬 こう、いや、最初こう、咳とたんが止まらんくて。

鈴木 咳とたんが止ま。

野瀬 まあ、次の日ぐらいから熱が出だして。

鈴木 熱が出して。はい。

野瀬 自分でも、ああこれ肺炎やなと思ったんですけど。

鈴木 ああ、そうですか。

野瀬 そしたらまあ、誤嚥性肺炎うたが、疑わはって。うーん、(#####@01:43:15)、あ、そっか。肺炎なったの2017年かもしれないですね。

鈴木 あ、1年前。クリスマスシンポが2018年の12月24日なんですけど。

野瀬 だった気がする。

鈴木 そのご飯が食べれない状況になったのって、どのぐらいの期間だったんですかね。シンポジウム前。

野瀬 えー。やっぱその年かなあ。

鈴木 じゃあ、1年ぐらい。

野瀬 そうですね、1年ちょい。

鈴木 1年ちょい。

野瀬 ちょい。7月か8月に肺炎になって、それでご飯止まったんで。

鈴木 変な話、2017年の7月とか8月ですか。

野瀬 多分そうですね。

鈴木 で、そっから肺炎にな、疑われて。

野瀬 で。

鈴木 1年ちょい。

野瀬 そう。

鈴木 クリスマスシンポの前まで。ご飯が食べれない状態が続いてたんですか。

野瀬 そうそう。

鈴木 すごいことですね、それは。

野瀬 で、鼻から管入れられて。

鈴木 はい。

野瀬 僕もうそんときにちょっと感づいてたんで。

鈴木 はい。

野瀬 それで治ったら食べれますよねって、あそこ管入れるの、もちろん僕の許可がいるんで。

鈴木 そうですね。

野瀬 この(#####@01:44:32)ですよって聞いたら、うん、治ったら食べれるよって言わはったから入れたんですけど。結果食べれないっていう。だから半分だまされたみたいな。

鈴木 ああ。

野瀬 まあ、僕も取りあえず自分の命を守らなあかんかったんで、そら栄養が必要なのは分かってるけど。

鈴木 うん、うん。

野瀬 もちろん治ったら食べれるのやろなと思ってたから。

鈴木 うん。

(無言)

鈴木 それ虐待の事件が発覚した後の、1年後くらいですよ。2017年っていうと。

野瀬 そう、そうです。

鈴木 ある意味こう、外出も制限されて、移乗も制限されて、で、その揚げ句に言うか。

野瀬 そうですね。

鈴木 今度は食事の制限されるみたいな。うーん。

野瀬 その院長、ご飯のとき、もうオカヤマさんも一緒に話を聞いてはったんですけど、オカヤマさんが結構きつい質問をしはって。

鈴木 はい。

野瀬 それは、それほどの医療機関に行っても同じこと、同じ診断を下されるんですかみたいな質問しはったら、はい、絶対にしますみたいな感じのこと言わはって。でもそこではJCも僕たちも諦めるしかなかったと言うか。

鈴木 うーん。

野瀬 ほんまはもっとがっと言ってよかったですけど。

鈴木 うん。

野瀬 いや、(#####@01:46:20)さん、シンポでこれこう言ったじゃないですかみたいなことは言ってもよかったと思うんですけど。まあ、退院があれやし、関係これ以上崩すのもあれやなと思って、僕が取りあえずストップは掛けました。

鈴木 あのー、その診断書って、ちなみに地域に、の医療機関の人にお見せになったことってありますか。

野瀬 いや、診療情報はそれは見せてないですけど。

鈴木 あ、それはもう見せられない。

野瀬 その嚥下機能を調べる検査を退院してから、7月に退院して7月の終わりぐらいにその検査をしました。第2(\*\*\*\*インセキ@01:47:04)のほうに。で、まあ、その専門の先生がいたんで検査してもらったら、なんの問題もないって言われて。(\*\*\*\*テバソン@01:47:17)から徐々に、まあ、まず体を慣らさない駄目なんで、1年ブランクがあるんで。慣らして、もうなんか普通の食事でも(####@01:47:29)。

鈴木 つまりあの一、誤飲性肺炎を疑ったっていうのは、嚥下機能に問題があるっていうふうに病院は判断したっていうことですよ。

野瀬 そう。ただ、そう。ご飯だけが肺炎の原因じゃないっていうような、もちろん僕も知ってる。

鈴木 うんうんうん。

野瀬 絶対ご飯ではないって、もう。

鈴木 うん。病院自体はじゃあ、肺炎であることは間違いない。

野瀬 肺炎は間違いないけど、誤嚥性かどうかは怪しい。

鈴木 うん。うんうん。

野瀬 まあ、も、その、唾とか鼻水を肺に取り込む可能性があるから、その可能性あるんじゃないかって。

鈴木 でも嚥下機能は全然問題なかったし。

野瀬 そうですね。

鈴木 そもそもウダノ病院でも検査されてますよね。

野瀬 そうですね。

鈴木 で、そのときも問題ないっていうことを伝えているのに、それは、し、言うこと聞いてくださらなかった。



野瀬 そうですね。

鈴木 うーん、なるほど。いや、そのときって、どう、どういうお気持ちでした。その1年ちょっとの、こ、管に、つ、て、食べることができなかったっていうのは。

野瀬 お父さんに来るたびに相談とかはしてますけど。

鈴木 はい。

野瀬 やっぱ、僕、食べたいっていうふうに。

鈴木 うーん。

野瀬 まあ、お父さんも悩んではって。

鈴木 うーん。

野瀬 こっそり持ってきて食べさせて、やってもいいんやけどって。

鈴木 それはでもできなかった。

野瀬 お父さんに、まあ、なんか言われるのが嫌やったみたいで。

鈴木 うーん。あの、先ほど3、4カ月前、退院前だったので。

野瀬 ええ。

鈴木 病院と関係をこじらせたくなかったっておっしゃってましたよね。具体的に言うとどういうふうに。

野瀬 その険悪な中で退院の調整とか進むのが僕が嫌やった。

鈴木 なるほど。

野瀬 気持ち(###@01:49:26)、せっかく楽しいことに向かってんのに、なんかバチバ

チした状態でけんかしながら準備するのも嫌やなど。

鈴木 フフ。あの一、そしたらその後の、なんて言うんですかね。ウダノ病院に何かこう、お世話になるからっていう感覚ありましたか。

野瀬 まあ、僕、退院したらもうウダノとは縁切ろうとは思ってたんで、その心配はほぼなかったんですけど。

鈴木 なるほど。

野瀬 そんなことがあったんで、僕もさすがにもうウダノには世話になりたくないなと思って。

鈴木 フフフ。うーん。でもなんか、野瀬さんはなんか、えっと、お知り合いっていうか、その、仲のいい指導室の人とかもいらっしやったわけですよ。

野瀬 いや、指導室にそんな仲のいい人はいないですね。

鈴木 あ、いらっしやらない。看護師さん。

野瀬 看護師とかにはいる。

鈴木 いらっしやいました。

野瀬 まあ、ちょいちょいコロナ前は会いに行ったり、後輩もいるんで。

鈴木 ああ、うんうん。

野瀬 会いに行ったりはしてたんですけどね。

鈴木 やっぱりそのことは気になりました。つまりバチバチだったらちょっとなかなか行きづらいとか。

野瀬 いやまあ、先生には悪かったな。でも、だから極力、土日に行くようにしてたんですけど。

鈴木 フフ。

野瀬 まあ、ただ、まあ、何回か仕事とか平日行ったときも、主治医に一回会ったのが、まあ、そのときに最近どうしてんのみたいな。僕、特殊でなんか、前も言ったけど主治医が2人いたんで、女性の先生のほうは割と優しくかったんで、ご飯食べれてるって聞いてくれはって、あ、食べれてますって。ちゃんと検査受けたらなんの問題もなかったですって言っただけですけど。

鈴木 それなんて言ってましたか。

野瀬 無言で。

鈴木 無言でしたか。

野瀬 苦笑いして。

鈴木 苦笑い。フフ。

野瀬 その女の先生は、もしかしたらほんまは食べさせてあげたかったんかもしれないですけど。

鈴木 なるほどね。

野瀬 もう一人の主治医のほうが立場的に上なんで。

鈴木 なるほど。

野瀬 言うこと聞くしかなかったんかもしんない。

鈴木 じゃあ、もう一人の主治医の人はどう思ってたのかってのは分からないですね。

野瀬 そうそう。

鈴木 大体もう、ちょっとあと50分になるつつあるので。

野瀬 ああ、はい。

鈴木 きょうはこれで終了したいと思います。

野瀬 はい。

鈴木 ありがとうございました。

(了)